



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年12月23日 第1199号「週刊五十嵐レポート」

オンリーワンか、ナンバーワンか

農学博士の稲垣栄洋(ひでひろ)氏著「弱者の戦略」の中に、「オンリーワンか、ナンバーワン」という箇所がある。世の中は競争社会である。しかし、何もナンバーワンにだけ価値があるわけではない。1人1人は特別な個性がある存在だから、それで良いではないか。

一方、世の中が競争社会だとすれば、やはりナンバーワンを目指さなければ意味がない。オンリーワンで満足してはいけない。

生物の世界の法則では、ナンバーワンしか生きられない。ゾウリムシとヒメゾウリムシの2種類のゾウリムシを1つの水槽にいっしょに飼う実験をした。最終的には1種類だけが生き残り、もう1種類のゾウリムシは駆逐され滅んでしまうことを発見した。強い者が生き残り、弱い者は滅んでしまう。生き残りをかけて激しく競い合い、共存することができないのである。

ゾウリムシの種類を変えて、ゾウリムシとミドリゾウリムシで同じ実験をした。すると2種類のゾウリムシは1つの水槽で共存したのである。ゾウリムシとミドリゾウリムシは棲む場所とエサが異なるのである。ゾウリムシは水槽の上の方において、浮いている大腸菌をエサにし、ミドリゾウリムシは底の方において酵母菌をエサにする。

同じ水槽の中でも棲んでいる世界が異なれば、競い合う必要もなく共存することが可能なのである。生態学では「棲み分け」と呼ぶ。同じような環境に暮らす生物どうしは、激しく競争し、ナンバーワンしか生き残ることができない。しかし暮らす環境が異なれば、共存することができるのである。自然界に存在する生物は、他の生物と少しずつ生息環境をずらしながら、自分の居場所を作っている。「ずらす戦略」はナンバーワン以外のすべての生物にとって不可欠なのである。

世の中には多種多様の生物がいる。自分の居場所(オンリーワンの場所)を見つけ、そこでナンバーワンになっている。ビジネスでも同じではないか。ニッチも生物学の用語。自然界から学び、自分独自の場所を見つけ、創り出し、そこでトップを取る。アスファルト舗装の割れ目のタンポポ。おまえもそこでナンバーワンか。

ちょっと
気になる出来事

12月17日付日経新聞「中国編」中国編。

中国本土では日本のロックギタリスト、MIYABIさんが人気を集めた。国営放送系の動画配信番組に参加し、知名度が上がった。「中国版X」といわれる「微博(ウェイボ)」のフォロワーは117万人にのぼる。

MIYABIさんは12月に日経新聞の取材を受けた。2025年から中国に活動拠点を構える。音楽活動などの1/3以上を中国で行う方針。25年の中国での公演数も前年の5倍以上に増やす。中国でロックスターとしての人気を確立し、世界で活躍の場を広げる考え。

中国の音楽ビジネスについて「新しい動物的な何かが生まれるスリリングな面白さがある」また「巨大な市場規模のため、資本、SNSでも米国企業に依存せずに自国企業で手掛けることができる」。「中国は音楽、パフォーマンスの価値が高く、歌唱能力や演奏能力への評価が高い。一方、米国にいるロックスターは中国で見当たらないため、中国でロックスターを目指したい」「3年間は中国での時間を長くして基盤を作りたい」と。

MIYABIさん、最近日本で見かけないと思ったら、中国に行っていたんですね。製造業では苦戦ですが、ソフトでは戦える余地があるんですね。



一口メモ
知識

幾(き)と機(き)と期(き)を観る

「幾」は、「ごく僅(わず)か」「兆し」「機微」を意味する。

「機」は仕掛けを動かす小さな木軸。そこから、物事の仕組みのツボ・勘所という意味がある。

「期」は約束された時。時が熟し、満ちることである。

「幾と機と期を観る」とは、物事を成し遂げるために必要な力である。

ごくわずかな物事の変化の兆しを察し、その物事を動かす勘所に焦点を合わせたら、後は、時の熟するのを待つことが大切である。

「易经一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

